

2020年度 人権共闘 総会開かれる 子どもの深刻な貧困状況、生きづらさ

高退協から選出される
顧問 鎌田伸一さん 副議長 原 淳さん
事務局員 田中正さん 野村幸司さん

田中正
十月十日高知城ホールで人権共闘（人権と民主主義、教育と自治を守る高知県共闘会）の2020年度総会が開かれました。まず2019年度の、子どものせん称語発言などに関する取り組み、K市の人権教育・啓発推進基本計



講師の今井好一さん

「新型コロナ禍の医療現場の現状と人権問題」

報告 田中正

人権共闘 講演会
十月十日、人権共闘（人権と民主主義、教育と自治を守る高知県共闘会）主催の表記の講演会に参加しました。講師は、高知医療生活協同組合の今井好一専務理事でした。新型コロナウイルス感染症の国内の発生経過と動き、現在の世界、日本、高知県の感染状況、医療現場（特に高知医療生協）の取り組み、医療・介護関係者への差別と先の見えない不安と職員のメンタル不全（いわゆるいじめの悪意のある風評）と一方で「医療や

画について、幡多郡のK町の中学校における「落書き」問題について、K市における発達障害のある子どもへの人権侵害について、K市などの「人権に関する意識調査」などをめぐる問題、などの問題点や課題、取り組みについて報告がされました。続いて2020年度の活動方針が提案されました。新型コロナ禍、危機の中で国民の命と暮らしが脅かされていること、また憲法に基づく政治（立憲主義・民主主義）を否定し、「改憲」や条文解釈変更や戦争への道を開こうとした安倍前首相の意思を継承すると公言する菅首相は、政治の私物化や政治と金の疑惑には蓋をしようとしていました。政府自民党の施策に疑義を示す官僚の首を切り、政府自民党の政策に意見を持つ研究者、学者を日本学術会議の委員に任命しないなどの異論の排除に固執し、より強権的な政治に突き進むようになっています。危険極まりのない情勢になっています。また子どもの人権と生活を取り巻く状況も大変なことに

なっています。貧困状況や「生きづらさ」は深刻です。2017年度の小中学校の就学援助率は全国に比べ非常に高い割合で、年々増加する傾向にあります。高知県内の児童相談所に寄せられる虐待通告・相談件数も年々増加しています。児童生徒の暴力行為やいじめ、不登校数の増加も看過できません。コロナ禍での労働者の状況の深刻さや教職員の長時間超過勤務もも見逃せません。「部落差別の解消の推進に関する法律」をも利用して、こういった情勢、状況の中、①憲法改憲を阻止し、国民民主権と基本的人権の保障を定めた憲法を生かす社会の実現、②県や市町村に住民一人ひとりの基本的人権を保障する「公平・公正」な行政の実現、③憲法に基づく当たり前の教育の実現をめざし、「同和教育・啓発」を結実させる活動をいっそう進めることが提起されました。高教組からは、県教委の「ハラスメントに関するアン

診だけで薬を処方する混乱や実態もあつたなどにも触れられました。講演会には三十名以上が参加、高退協からも五名が参加し熱心に学習しました。この日の高知新聞には、コロナ禍により食糧援助などが滞り、世界で三億人以上が危機、飢餓が増えることや新型コロナウイルスのワクチン開発に関わり中南米の途上国で治験実験をロシア、中国などがしている「モルモット批判も」などの報道もあり、このコロナ、コロナ禍はまだまだ気を付けていなければならぬ分野で、いろいろな形でいるることで顕在化してくるようになってきました。10月24日、少人数学級実現に向けた情勢の劇的な変化の仕掛け人、乾彰夫さんを招いての学習会を開催しました（主催は「子どもと教育を守る高知県連絡会」）。乾さんは、「少人数学級」をめぐるこれまでの経過に触れた後、「まっとうな少人数学級実現」のために必要な事として、①道半ばの危うさ、②豊かな学校生活の保障、③正規教職員の十分な確保の3点を指摘しました。大きな世論の後押しがありながら、正面切って大幅教員増を打ち出せない文科省の対応が新たな問題を生じさせかねず、また高校や私学が取り残されている現状があるようです。そして乾さんは「まっとうな少人数学級実現」のためには、「政治」を動かす大きな世



講師の乾 彰夫さん

論の圧力が必要、私たちの力で大きなうねりを作り出しましょう」と呼びかけました。会場には「教育研究者有志」のお一人である鈴木裕さんもおかけつづけてくれ、教員派遣を新たなビジネスチャンスと捉えるパソナなどの人材派遣業が早速活気づいているという腹立たしい実態を紹介してくれました。来月には、「教育研究者有志」のみならずによる宣伝用のリーフレットが発行されるそうです。「ゆたかな教育」署名の取り組みをもう一回り広げ、「大きなうねり」を作り出しましょう。



「20人学級実現 せんせい増やそう ゆきさざい教育を求めの学習会」
講師：乾 彰夫さん
10月24日（土）子連学習会
報告 野村幸司

「20人学級実現 せんせい増やそう ゆきさざい教育を求めの学習会」

10月24日、少人数学級実現に向けた情勢の劇的な変化の仕掛け人、乾彰夫さんを招いての学習会を開催しました（主催は「子どもと教育を守る高知県連絡会」）。

なっています。貧困状況や「生きづらさ」は深刻です。2017年度の小中学校の就学援助率は全国に比べ非常に高い割合で、年々増加する傾向にあります。高知県内の児童相談所に寄せられる虐待通告・相談件数も年々増加しています。児童生徒の暴力行為やいじめ、不登校数の増加も看過できません。コロナ禍での労働者の状況の深刻さや教職員の長時間超過勤務もも見逃せません。「部落差別の解消の推進に関する法律」をも利用して、こういった情勢、状況の中、①憲法改憲を阻止し、国民民主権と基本的人権の保障を定めた憲法を生かす社会の実現、②県や市町村に住民一人ひとりの基本的人権を保障する「公平・公正」な行政の実現、③憲法に基づく当たり前の教育の実現をめざし、「同和教育・啓発」を結実させる活動をいっそう進めることが提起されました。高教組からは、県教委の「ハラスメントに関するアン

ケート」について「教職員の人権が守られない職場は子どもの人権も守られていない」と補強発言がありました。会員から高知市の「明るいまち」への質問を担当者に電話でしたが、「特定の地域」など明確に答えられなかった、答えなかった、との報告がありました。高知新聞「声」欄での「部落差別を考える」投書もやり取りは、自由なやり取りで一定の評価はするが、現在の法的にも制度的にも部落（同和地区）も関係者もないこと、「部落差別の解消の推進に関する法律」の問題点や付帯決議に触れていない、「部落差別」に関してはインターネット上の書き込みが99%以上が占めていて実際上はないというところ、など投稿者（会員）から意見がありました。また今年度は、個人会員の尽力もあり、30名近い個人会員の入会があつたとの報告があつた。総括や活動方針、役員体制の提案も含めて、承認されました。高退協会員から規約変更の後、顧問に鎌田伸一さん、

副議長に原淳さん、事務局員に田中、野村幸司さん（高教組選出）が選ばれました。

高退協ニュースに投稿を。
「文字でつながる交流の場・高退協ニュース」に気楽に投稿してください。
高退協ニュースが活発な交流の場となるよう積極的な投稿をお待ちしております。

① 郵送 〒780-0850 高知市丸ノ内2丁目1～10
高知城ホール高教組気付 高退協 ニュース担当係

② メールで送信 kkoutaikyou@gmail.com